

## 戦略的技術開発推進に係る農林漁業者、目利き人材からの技術提案一覧

分野	技術提案内容
水田作	<p>歩留まりの良い性能が高い(損失3%以下)汎用型コンバインの開発。</p> <p>水が張ってある状態での均平化技術の開発。</p> <p>大量に発生する籾殻の処理技術(エネルギーとしての利用等)。</p> <p>高カロリー化による差別化できる飼料用米の開発。</p> <p>コンバインと籾運搬機の間を取り持つ無人運搬車の開発。</p> <p>刈り幅が広く折りたためて道路を走行出来るコンバインの開発。</p> <p>営農におけるリスクを知らせてくれる営農管理ソフトの開発。</p> <p>水田と畑地の両方で使用出来る汎用性のあるトラクターへの改良。</p> <p>圃場内の低い場所からの水漏れを防止し、水持ちの良い圃場にする土地改良技術。</p> <p>株元の雑草をセンサーで感知し、レーザーで焼くなどの技術の開発。</p> <p>耕畜連携の実証や堆肥の増収効果の解明研究(鉄の不足は対応策がない)。</p>
畑作	<p>土壌の簡易な測定方法の開発。</p> <p>過去の収穫量の良し悪しを振り返るための営農管理ソフトの開発。</p> <p>自動的なデータ取得の技術(ビーコンのようなものでどこにあるかもわかるようなもの)。</p>
畑作(茶)	<p>煎茶の高品質製造技術の開発。</p> <p>AIを活用し、茶葉の標準的な手摘みの技術が習得できるようなシステムの開発。</p> <p>香味が増すなどの効果がある萎凋(いちょう。茶葉をしおれさせ、酸化発酵させる技術)を勘に頼らず効果的に量産できる機械の開発。</p> <p>天然で柑橘やバニラなどの香りの出る品種の育種と製法の開発。</p> <p>水分供給量・施肥量・樹液成分を分析し、データを踏まえて施肥量を決定する技術の開発。</p>
野菜	<p>わき芽の出ないマトの品種の開発。</p> <p>防除技術のうち天敵利用の研究。</p> <p>太陽光型の施設での温湿度の環境ムラをなくすための技術開発。</p> <p>花粉媒介昆虫(クロマルハナバチ)の安価な生産技術</p> <p>サトイモの収穫機の開発</p> <p>位置情報を入力すれば、勝手に薬を準備してくれて散布してくれるドローンなどの開発</p> <p>軟弱野菜の収穫ロボットについて、ハウレンソウ以外の野沢菜などの野菜への応用開発</p> <p>サトイモの親芋、子芋、孫芋を工学的発想によって仕分ける技術の開発</p> <p>AIを活用した雑草を選択的に除去することができる除草ロボットの開発</p>
果樹	<p>野生のマメコバチ(媒介昆虫)の天敵であるダニを防除する薬剤が規制され使えなくなったため、その代替品の開発</p> <p>収穫ロボットも重要であるが、収穫作業を補助する自走式の運搬車の開発</p> <p>摘果作業を劇的に省力化する技術</p> <p>果実の加工品の機能性や品種改良による機能性向上の研究</p> <p>収穫・摘果作業の省力化・薬剤防除ができるロボットの開発</p> <p>落とす量を調整できる摘果剤の研究</p> <p>黒星病によく効く薬の開発</p> <p>開花が早過ぎると霜や花冷えて駄目になるため、花を遅く咲かす技術の開発</p> <p>シャインマスカットのように皮ごと丸ごと食べられる黒色のぶどう品種の開発</p> <p>生食用の品種をワイン用(酸が少なく、糖が多い必要があることに加え、加工のしやすさの観点で、粒が粗着で小粒が良い)のぶどうにするための栽培技術の開発</p> <p>ぶどうの白紋羽病対策の技術開発</p>

分野	技術提案内容
畜産	放牧地の子牛の状況を遠隔地で確認できる技術開発
	手軽に土壌検査ができる機械の開発
	哺育(哺乳)ロボットを導入しているが、一頭ずつ個体管理し、全個体管理出来るようになれば良い(価格は300万円くらいで30頭~60頭を管理)
	体調管理がしやすいハッチで一頭ずつ管理するシステムの開発
	50万円程度の畜産用アシストスーツの開発
	気候変動の緩和としてメタンガス排出が少なく、乳房炎(黄色ブドウ球菌、連鎖球菌)、蹄病などに強い形質が付加された牛の開発
	排泄物の堆肥化処理技術の開発
	2~3百万円程度の直播用(4kg~10kg/10a)のドローンの開発
	資源量の多いエコフィードの保存・利用技術の開発
	アンモニア臭を抑えるための安価な微生物資材の開発
	分娩舎や離乳舎で暖房用に水分を調整した堆肥を燃やすための塩分800~1,000PPM以下でも使えるボイラーの開発
	食用にも飼料用にも使える良食味で多収の米の研究
	濡れていても稲刈りと同時に稲わらを集められ、そのままサイレージ化できる技術・機械の開発
	AIを上手く活用して絞り残しが出ない搾乳ロボットの開発
	林業
均一に散布するため、鶏糞を丸い形のペレットに製造する機械の開発	
万一の侵入に備えた口蹄疫等の海外重要伝染病の着実な研究	
カラマツの挿し木増殖技術の開発	カラマツの挿し木増殖技術の開発
林業	素材探知作業(素材(丸太)の樹種、径級(太さ)、長級(長さ)等を調査し、その数量等を確定すること)を省略できる技術の開発
	災害時の林道の法面崩壊や倒木の処理を無人で出来る機械の開発
	水産
小型でかつ窒素酸化物削減に対応したエンジンの開発	
一本釣り漁業の自動化技術の開発	
船の運転管理を省力化する技術の開発	
既存の船に付け足せる安価な省力化技術の開発	
成長効率の良い低魚粉餌料や給餌方法の研究	
大幅にコストを削減する可能性のある高成長系統のブリの作出研究	
赤潮の早期予測技術の確立	
身割れ等の出荷ロスを防ぐため、ブリを取り上げる際、炭酸ガスで麻酔をかける等、数千匹単位の大量の魚を沈静化して水揚げできる技術の開発	
安価で利用でき、鮮度保持効果の高い技術や特に出荷前の冷凍技術の開発	
魚等の高付加価値化のための鮮度等の美味しさを数値で評価できる技術の開発	
水温や潮流の海洋環境等の情報をリアルタイムに漁業者に提供できる仕組みの開発	
大量の海洋環境データを用いた漁場の予測技術の開発	
複数の魚種をサイズ別に選別できる機器の開発	
見た目では判断できず刺身にしてみないと分からない生臭いカツオを見分ける技術の開発	
氷の量を減らすためカメラなどで定置網に入っている魚の量を事前に把握できる技術の開発	